

「宜野湾高校の生徒達へ (21)」

2020.6.17

「慰霊の日」が近づいてきた。今回は、学徒兵について取り上げる。

戦前、沖縄には二十一の中等学校がありました。沖縄戦では、これらのすべての男女中等学校の生徒たちが**戦場に動員**されました。女子学徒は、十五歳から十九歳で、主に看護活動にあたりました。男子学徒は十四歳から十九歳で、上級生が「**鉄血 勤皇隊**」に、下級生が「**通信隊**」に編成されました。鉄血勤皇隊は、軍の物資運搬や爆撃で破壊された橋の補修などにあたり、通信隊は、爆撃で切断された電話線の修復、電報の配達などの任務に従事しました。沖縄戦により、**学業半ばで多くの生徒が短い生涯を散ら**しました。
(沖縄県子ども生活福祉部 保護・援護課 HP)

以下は、「**二中鉄血勤皇隊 証言6 本当なら僕が死ぬ順番だった**」(沖縄戦継承事業チャンネル)からの引用。

玉陵で見張りをしている時、五年生の先輩が見張り交代にやってきました。「鉄血勤皇隊に戻れ」とのこと。師範学校の記念運動場の南にある衛兵指令所に戻り、銃・弾・剣を返納し、すぐに養秀寮の北にある勤皇隊本部へと急ぎました。

途中、艦砲がものすごく、**首里城付近で炸裂**しました。那覇の海からの集中砲撃でした。岩陰に身を潜めながら、砲弾の中を本部に帰って帰任報告すると、「勤皇隊本部が豊見城村の保栄茂に移動するから道案内をしなさい」とのことです。

小隊に戻ってみると、先ほどの「**先輩が戦死した**」との話で皆が騒いでいました。「**今さつき交代したばかりなのに**」と話しましたが、「見張りを終えて衛兵指令の時、直撃を受けて即死だった」とのこと。「**本当なら僕が死ぬ順番だったのに**」。道案内の任について命を長らえることになりました。



また、私が勤皇隊本部付になることによって、**百大隊配属を学友と交代**しました。「**百大隊は全員戦死した**」とのことでしたので、今から思うと申し訳なく思います。

日本国憲法では、「**国民主権**」、「**基本的人権の尊重**」、「**平和主義**」を三つの基本原則としている。

「**国民主権**」とは、国の政治のあり方を最終的に決めるのは国民であるという考え。

「**平和主義**」について憲法前文に「**政府の行為によって再び戦争の惨禍がおこることのないやうにすることを決意**」と書かれている。

私たちは、この三原則を**自分自身の手で守って**いかなければならない。守る方法の一つが選挙権の行使。その時にしっかり判断できるように沖縄の現実に関する情報収集を、日頃から意識して行うことが必要だ。

沖縄県立宜野湾高等学校長 津留一郎